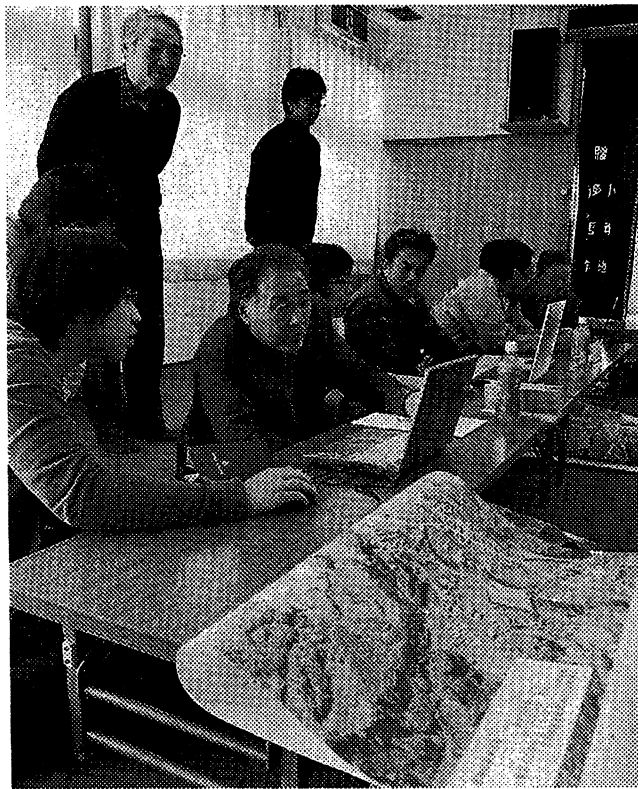


# 津波被害 地図データ化

## 越喜来地区で調査報告

### 國學院大 低地利用の参考に 吉田教授ら

國學院大学文学部歴史地理学教室の吉田敏弘教授らのグループが18日、大船渡市三陸町越喜来で行った東日本大震災の被害調査成果を関係区長らに報告した。



吉田教授らは6月、各種情報のGIS(地理情報システム)上で、同地区における津波被害状況の大縮尺地図化(2000分の1)、今回の災害時における避難行動の記録、被災状況や避難行動に関する

は、持ち帰った調査結果を元に、被災前と被災後の航空写真に等高線を入れる作業などを行い、9月末に完了した。

この日の報告会には、吉田教授と同大学院生、三陸の津波について研究している同地区の及川忠之丞さん、同地区南区の森城区長、同西区の熊谷秀一区长、同東区の坂本三也区长ら約10人が出席。院生らがパソコンを使用して津波の到達点、家屋の被害状況などを説明した。

今回の報告会で使用された地図データは、建物の被害状況を色分けして表示しており、学生らが地図データについて区長らに説明し、三陸町越喜来

調査地点をクリックすると画像も表示される。また、50センチ、1メートル、5メートル、三つの間隔の等高線が引かれており、被災後の航空写真と重ね合わせることで、津波の到達高を詳細に知ることができ

る。また、50センチ、1メートル、5メートル、三つの間隔の等高線が引かれており、被災後の航空写真と重ね合わせることで、津波の到達高を詳細に知ることができ

る。また、50センチ、1メートル、5メートル、三つの間隔の等高線が引かれており、被災後の航空写真と重ね合わせることで、津波の到達高を詳細に知ることができ

2011年10月20日付け  
東海新報より